

◆【海員随想】BISKRA号航海記(21)② 新木繁雄

**7月11日 インド洋航行中**

海水温度が下がり、機関室がやや涼しくなった。船体は相変わらず大波にもてあそばれ、ローリング、ピッチングを繰り返している。

機関長が「主機の予備品を注文したいので相談に乗ってくれ」と呼びに来た。CNAN(アルジェリア国営海運)の船は、われわれ日本の船員が想像できないような予備品を請求する。だから日本の基準で考えては駄目だ。高価なものをたくさん請求するほど、優秀な機関長ということになるらしい。

話を聞いてみると、この船がスクラップになるまで取り換える必要がないと思われるようなものまで請求するという。燃料弁の噴射ノズル、インジェクターバルブのシートとスピンドル8気筒分、それに排気弁の弁棒と弁座各4個を請求したいという。この程度ならまあまあだろう。日本船の基準からは、かなり多いが。

**7月12日 インド洋**

1号発電機整備、ターボチャージャー潤滑油取り換え。ナンバー4シリンダーのインジェクターバルブ取り付け部から少量の排気が漏れている。パッキンが悪いらしい。取り出したパッキンは変な形につぶれている。起動空気電磁弁のスピンドルも取り出して磨いた。

「人工衛星スカイラブがインド洋に落ちた」というニュースを、無線士がラジオで聞いたといていた。

機関長が予備品に関して、必要がないと思われるものまで請求するという。それならそれでいいだろう。

私としては、アンカーさえうまく落ちてくれればということなしだが、シンガポールでやった修理では多分駄目だろう。造船所の指示通りやったのだけれど、大きな金をかけて無駄なことをしたものだと思う。私は一介の保証技師だから、修理方法に関して口出しできる立場ではない。「やれ」という方法でやるだけだ。

**7月13日 インド洋**

大きな時化ではないが、うねりが大きいので船体が激しくピッチング、ローリングを繰り返している。それに加え、朝から時々激しい雨がフロントにある私の部屋のポールドをたたきつけてくる。船体動揺でさっぱりスピードが出ない。

機関長が今日も予備品請求の相談に乗ってくれとってきた。同型の姉妹船から提出した予備品請求書が来ている。FAXで送ってきたのか。全く必要がないと思われるものがすごく多い。おそらく本船がスクラップになるまで取り換えることがないだろうと思われる物もたくさんある。

夕食はマトンのステーキだ。大きくて分厚いのが出ている。テーブルに出ているワインと一緒に腹に収めた。